

幼児教育・保育の質の向上研修ニュース

発行日 平成27年9月30日
 発行者 舞鶴市教育委員会
 舞鶴市健康・子ども部

7月2日(木) 岡田小学校・岡田保育園 公開授業・保育を実施しました

保幼小連携活動について学ぶため、岡田小学校と岡田保育園の公開授業・保育を実施し、鳴門教育大学大学院教授木下光二先生にご指導いただきました。

保育園・幼稚園・小学校から約30名の参加がありました。また中丹地域での保幼小連携推進を図っておられる中丹教育局からも指導主事が視察にいられました。

岡田小学校・岡田保育園は、木下先生のご指導を受けて連携活動の公開を行うのが、今回で3度目となるため、変化してきた点なども含め、連携活動だけでなくその基となる日々の教育・保育にも関わる様々な事柄について、ご指導・ご助言いただきました。

＜公開授業・保育＞ 場所:岡田保育園 ～生活科学習指導案より～
 9:00- 9:30 岡田保育園見学 【学 年】小学校第1学年:10名
 9:30-10:30 連携活動 公開授業・保育 保育園 年長児:21名
 10:45-12:00 カンファレンス 【単元名】なつだあそぼう



【本時の目標】

- 1年生:○水や泡を使って楽しく遊べることや遊びを工夫する面白さに気付くことができる(気付き)
- 水や泡を使った遊びを工夫することができる(思考・表現)
- 泡遊び・色水遊びに関心を持ち、みんなで楽しく遊ぼうとすることができる(関心・意欲・態度)
- 年長児:○友達や1年生と、色水の変化やシャボン玉の美しさ、不思議さを感じている



参加園/校	
岡田保育園	朝来幼稚園
さくら保育園	倉梯幼稚園
平保育園	三鶴幼稚園
タンポポハウス	
東山保育園	
ルンビニ保育園	朝来小学校
八雲保育園	岡田小学校
やまもも保育園	高野小学校
うべのもり保育所	由良川小学校
中保育所	校
西乳児保育所	吉原小学校



環境に子どもが自ら働きかけることが大切 停滞時には、先生が楽しんでモデルを見せる 連携から(教育課程・カリキュラムをつなぐ)接続へ ～木下先生カンファレンスより～

＜朝の自由遊び＞

- ◎コーナーが点在しており、いろんな場所にばらけて好きなところで遊んでいて、とてもよかった。
- ◎遊びこむこと、遊びたくなる環境を常に意識されている。いい声、いい表情がいろんな場所にあった。
- ◎子どもがたくさん遊んでいるのは先生が変わったから。
- ◎小学校が来たときに、以前は3・4歳児を部屋に引き上げさせていたが、今回はそのまま遊んでいたのが良かった。



＜環境を通した遊び＞

- ＜シャボン玉遊び～＞
 シャボン玉液に赤土を混ぜる子や小学生が持ってきた道具(ハンガーに包帯を巻いたもの)や木に毛糸をくっつけた道具でシャボン玉遊びをしていた。
- 【木下先生】
 ◎単なるシャボン玉遊びではなく、液に赤土を混ぜている子がいるのも面白い。先生がそれをとめずに見ているのが良い。シャボン玉と何かを混ぜて遊べる環境になっている。なんで入れているのかその子に聞いてみたい。担任が次につなげる(ex.色んなものを入れてみる)。
 ◎準備しすぎてなくてよかった。
 (毛糸の長さ、自分で糸を切る、くくるなど)

＜色水遊び＞

- 花びらや葉で色水あそびをしている。
- 【木下先生】
 ◎以前は先生が花びらを摘んでカップなどに用意があつたが、今回は子ども達が自分で花を摘みに行くことができるように環境が設定されていた。
 ◎環境に子どもが自ら働きかけることが大切。教材同士の関わりの中で育っている。



＜連携活動について＞

＜導入＞

- 朝遊びの途中に小学生が到着し、5歳児と小学生が集まり教師や児童からの話をさく
- 【木下先生】
 ◎静かな集まり方が良い。集まっている一方で遊びが続いており、大きな声もない。
 ◎無理に集めるのではなく、他にやりたい遊びがあっても、みんなが(楽しそうに)気になってシャボン玉に集まるといい。
 ◎前の活動(泥んこ)の時にあった気づきを伝えたり、どんなシャボン玉を作りたいか尋ねたり、「楽しみにしている」「発見を教えて」など子どもに聞いたりすると良かった。
- ＜振り返り＞
 5歳児と小学生と一緒にサークルを作り今日の遊びについて振り返る場面
- 【木下先生】
 ◎振り返りが良かった。小学生の話す姿が年

- 長児のイメージになって良かった。担任が子どもに「何が楽しかった？」など問いかけをして良かった。
- ◎担当を決めていたようだが、1年生の担任も振り返りに参加し、今日一番の学びを子に伝える場面があれば良かった。両者で子ども達を見取り、次にどうつなげるか？導入・まとめ共に両者で行った方が良かった。
- ＜連携全般＞
 ◎朝の遊びのイキイキ感が小学生が来て停滞してしまった。子どもの声が小さくなった。
 ◎停滞している時には、先生が楽しんでモデルを見せる。これを使うと遊びがどうなるか？
 ◎シャボン玉のひもを長くしすぎてやりにくい子の援助なども必要。
 ◎担任一人に求めるのは難しい。周りがどれだけサポートするか。
 ◎単元をどうつくるか、何を体験させようとして

- いるのか。ねらいをどう達成するかがぼやけていた。生活科＝探求 明確なめあてが生活科には必要。
- ◎同じシャボン玉遊びでも校庭というのがある保幼の環境の中でするのでとは違う。
- ◎先生が子どもにさせたいことがあつていいが、子どものやりたいことと違うとダメ。させたいことと、やりたいことが一致するように上手に持っていく。(その素材があるから遊んでいるになっている。先生はそのために前に出ないといけなときは出ていい(停滞時のモデル等)
- ◎課題のない活動はない。見つかった課題をクリアしていく。遊びと学び、保育と教育、違いはある。吟味しながら進めていく。
- ◎この研修事業に教育委員会や幼稚園も入ってできるようになったのはとてもよいこと。連携から(教育課程・カリキュラムをつなぐ)接続へと進み、ぜひ接続カリキュラムを作ってほしい。

学校と保育園の違いはあるが、その中でお互い大切にしたいことを話し合っている 協力しないといけないような仕掛け 活動後の先生同士の振り返り

～カンファレンス参加者意見より～

《意見交換》

Q1、今日の活動までどんな経験をしてきた？動機づけ・今日の活動の理由は？

A、(年長担任より) 去年からの朝遊びでじっくりと好きな遊びをする時間を取り入れてきた。そのことで満足して次の活動に移ることが出来るようになった。泥んこ、色水、石鹸・泡あそび等の活動の中で一番好きな遊びが泡あそびだった。さらにシャボン玉遊びに発展していった。一年生も去年経験している遊びでもあり、普段の遊びと関連付けられたらと設定した。

(小学校担任より) 他の学年のシャボン玉遊びをみて、手洗い石鹸・ストローから始まった。小さいシャボン玉が出来た喜びから大きいものを作りたいという意欲に。

Q2、今日の活動の中の学びは？

A、以前は個々に遊んでおり、声をかけると混じり合う、大人の関わりがないと混じり合わないという状況であった。自然物がたくさんあっても関わる力がなかったので、関わるようにしかけていった。

今回は1年生の気付きが遊びの中に入れたいなど。(1年生の持ち込みの)道具の量を多くしすぎず、貸しあいができるようにした。

道具を変えたと違う形になることがわかるようにした。年長はものを組み合わせるといろんな形になるなどに気付いていた。

小学生は活動の中ではいろいろつぶやいていても振り返りで言えなかったのが、言えるように

なった。教えてと言うとしり込みすることがあるので、そこを進めたい。

Q3、環境設定で気をつけたことは？

A、道具の数を多く置かない。木の棒と毛糸は年長と小学生が一緒にするために置いた。また、ハンガーも作るのが難しく協力してつくることを期待した。

Q4、今回の活動をとおしてお互いに得はあった？(互恵性)

A、(小学校担任より) 違う場に来たことがまず第一歩。

(年長担任より) 初めて使うハンガーでもできるという発見があった。

「手伝って」が最初は出来なかつたけれど最後は協力する姿もあった。1年生の姿を見て「何が違う？」と気付き、どこが違うのか考えてやっていた。それによって出来た喜びを味わった。また年長児の姿(見本通りに作らなくても出来る)から1年生も気付くことがあった。

今年は指導計画を小学校と保育園と一緒に作ることができた。学校と保育園の違いはあるが、その中でお互い大切にしたいことを話し合っている。

<会場の意見より>

◎(小・教諭)保小連携で朝顔の種を一緒に植え観察している。手触りがさがさ、ふわふわ等感じる

がそれを周りに伝えたり広げられていない。保育園の先生から教えてもらい、1人ずつ土を用意しておくのではなく、協力して運ばないといけないように仕掛けをしている。仕掛けによって関わりが変わる。

◎(保育士)課題に気付けたときは、先生同士で意識的に一年かけてやっていこうと話している。互恵性について、活動後必ず振り返るようにしている。今日はお互いにお得があったのか？と考えている。

◎(教育委員会)年間を通してお互いに成長し合える機会があることで、先生も成長する機会になっている。なぜ関わりが必要か。自分が感動したり発見したこと、興味・関心それを子どもは伝えたい。一人ではできないダイナミックな活動ができ、知恵を出し合う。色水遊びでは化学変化が起こっていた。環境がすごく大事。花を摘んでいるのも、学校では怒られるが、園では大事な環境。先生がどういう声かけをしていくか、子どもの主体性を引き出すための、その場その場に適した声かけについて、先生方にはいっぱい学んでほしい。



カンファレンスの中でも「環境設定が大事」との発言がありました。保幼小連携にも日々の教育・保育にも関わる環境について、各園の取り組みや木下先生からお聞きしたお話を紹介します。

～環境のヒント～

<保育園>～子ども主体の保育を通して～

◎年少児は年長・年中児の遊びを見て、これしたいというのが育つ。年長・年中児に「ある程度枯れてきた園庭の花はとっていいよ」と何度か伝えと、年少児もそれを見て、年長・年中児に「これとっていい？」と聞きに行く。

◎ポリタンクいっぱい水を入れてしまうと子どもが運べない。空で置いておくと子どもが持って行って水を入れ、他の子に「一緒に持って一」と言って協力して運び満足した様子がある。

◎子どもが生き生きしてきた。遊びに夢中。保育士の考え方が変わり、枠が広がってきた。クッキングはクッキングの日だけと思っていたが、いもがとれた時とか、いつでもいいと思えるようになった。

◎子どもも自己発揮が大事だが、保育士も同じ。子どもの良いところが見えるようになり、自分達で考え、自己肯定感が上がって、先生も伸びてきた。園全体の風紀も変わってきた。

◎連携も環境もねらいが大事。ねらいがはっきりしているから、環境も整えられる。異年齢は空間を共有するだけでなく、関わりを持たせる。どんな子を育てたいかがはっきりしている。自分で持ってきてする子になってほしいから、テーブルの上に何も無い。小と保・幼の先生は、1つねらいを決めてそれに向かって話す話しやすい。具体的なことも出てくるようになる。

<木下先生>

◎鳴門教育大学附属幼稚園の色水遊びはテーブルの上に何も無い。道具も材料も子どもが調達してこないといけない。並べておくとそれでしか遊ばない。保育者が置いたものか、子が置いたものか重要。

◎入園すぐなど、どこに何があるか分からない時は、置いてもいい。誘い水として置くときがあってもよい。時期・年齢もある。でしゃばりすぎても、引っ込み過ぎててもよくない。

◎「咲いたばかりの花は取らないでね。萎れたようなのはいいよ。」と言っておくと、聞きこなくとも自分で取る。取ってはいけない花があってもいいが、取っていいのものもある。事前の約束で入園の時に話しておく。「ただ公園のは取らないでね。幼稚園のはそのためにあるんだからいいんだよ。」と言ってあげる。自然は最高の素材。自然の素材で遊べる子に。

◎その季節の自然物や生き物が室内にあるとよい。子どもがしたい時にしたい物が取れるようにする。

◎朝、「これがしたい」と思って子どもが来ているか。前の日にそう思わせて帰らせているか。家から何かを持ってきたり、「今日は〇〇するんだ！」と言っているか。前の日に保育士がきくとあの子は明日こうするなとわかっていること。

◎シャボン玉でも、液だけで遊んでしまうところを素材と素材とを混ぜる姿があった。先生の許容範囲が広がったからできるようになったもの。

◎鳴門の園では、時間的な束縛を子どもに与えない。おやつ時間も自分で決める。ウサギ当番も朝子どもがやりたいことをやって落ち着いたら集まってきてしている。中には遊びに夢中になる子もいるが、それはそれでいい。ごめんね、明日は行くね。でよい。

◎遊びと遊びが見える環境が大事。じっくり遊ぶところ、体を動かすところは分けるとよい。

◎子どもとつくる保育を。(全国のいろんな園を見ながら)じょうろに「花用」と「砂場用」があり、泥が入ると詰まるので分けているという所があった。しかし泥が入って詰まることで、なぜ詰まるのか考える。その機会を奪ってしまっている。

◎雨の日に園庭に出ないところがあるが、雨の日にしか経験できないことがある。親には、雨の中でこんな素敵な発見をしたと記録で見せてあげる。

◎朝は、一番心が解放されて、遊びにいい時間。鳴門は、7～8割が自由保育、2～3割が設定保育(みんなで踊る、運動会の練習等)。自由保育は魂の自由で、解放されている状態であり、なんでもどうぞではない。

◎環境にだけ目が奪われがちだが、意図の方が大事。

◎遊びの中の発見、成長、学び、何が育ったかを記録し、一人ひとりの遊びを見つめて広がること。

◎先生は遊びが停滞したら入り、充実したら離れる。子ども同士で遊べる子をつくる。